



研究用試薬

ヒストファイブ

第一抗体

抗TTF-1モノクローナル抗体(SPT24) (ヒストステイナー用)

(動物種：マウス)

包装： 60 テスト (12mL)

Code： 713841

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03 (3248) 2208 FAX. 03 (3248) 2243

- 本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。
- 特異性および抗原分布：組織中の甲状腺転写因子-1(Thyroid Transcription Factor-1：TTF-1) (38kD)と特異的に反応する。TTF-1は、甲状腺、肺、脳に特異的に発現している転写因子であり、ホメオドメイン転写因子ファミリーに属している。ラットやマウスの相当するタンパク質と98%の相同性がある。タンパク質の酸化状態やリン酸化状態を調節する役割として機能し、甲状腺や肺の正常な発達に必要な不可欠であるとされている。正常では、肺の上皮や甲状腺濾胞上皮の核に反応がみられる。腫瘍では肺腺癌、肺の小細胞癌、甲状腺濾胞上皮由来の腫瘍(乳頭癌、濾胞癌等)に反応がみられる。中皮腫には反応がみられないことから、原発性の肺腺癌と悪性中皮腫を鑑別するのに有用なマーカーのひとつである。
- クローン名：SPT24
- 抗体のサブクラス：IgG1κ
- 免疫原：TTF-1分子のN末端領域の123アミノ酸フラグメントに対する原核生物の組み換えタンパク質。
- 製法：ハイブリドーマの培養上清より得ている。

1. 内容

第一抗体・・・抗TTF-1モノクローナル抗体(SPT24)(動物種：マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に12mLを含む。

2. 使用目的

組織・細胞中のTTF-1の染色。

3. 切片の準備

前処理(抗原賦活化)としてヒストファイブ 抗原賦活化液pH9 (Code:415211 または Code:415201)を用いたオートクレーブ処理が必要である(裏面の操作手順参照)。

4. 使用方法

パラフィン包埋切片の免疫組織化学および免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。

1) 他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。

2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

5. 染色方法の設定

反応時間を30分間とする。

6. 貯法

2-8℃保存。

7. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	抗TTF-1モノクローナル抗体(SPT24)
試薬略称(10文字)	TTF-1MM
バーコード	TTF-1MM
時間(分)	30

8. 主要文献

- (1) Colon D. Bingle: Int. J. Biochem. Cell Biol. 29 : 1471-1473, 1997
- (2) Eva Comperat, et al: Modern Pathology 18: 1371-1376, 2005
- (3) D Penman, et al: J Clin. Pathology 59 : 663-664, 2006
- (4) T. Berghmans, et al: Lung Cancer 52: 219-224, 2006
- (5) Paul J. Zhang, et al: International Journal of gynecological Pathology 28 : 10-18, 2009

■ 研究用としてのみ使用すること。

■ 切片の準備

1. 50℃で十分に湯伸ばしした切片 (3-4 μ m厚) をシランなどのコーティングスライド上に張り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS
3. 前処理(抗原賦活化) : オートクレーブ処理
 - ①緩衝液(下記記載)を耐熱性バットに入れ、切片を浸す。
 - ②バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。
 - ③120℃、20分間オートクレーブ処理する。
 - ④圧力が十分下がった後、バットごと切片を取り出す。
 - ⑤バットの蓋をはずし、バットごと切片を常温に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。
※オートクレーブ処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
 - ⑥スライドを緩衝液から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ビンを使用する)。

・ 抗原賦活化液pH9の作り方

- ・ Code : 415201 抗原賦活化液pH9 (調製済)は、そのまま用いる。
- ・ Code : 415211 抗原賦活化液pH9 (10倍濃縮)は、精製水で10倍希釈する。